

〇〇ビール 企業広告 長尺ドラマ

延長戦

(2、3分)

#2 女の場合 脚本 大岡俊彦

登場人物

女(28) 会社員。

彼氏(28) その彼氏。

上司(50)

○会社、オフィス

女(28)「まじですか！ 私がやっていいんですね！」

上司(50)「時間なくて申し訳ないが、チャンスだと思つて」

女 「企画書のフォーマットでいいですか」
上司 「月曜にあると助かる」

女NA『くすぶっていた私にも、ようやく星のめぐりが回ってきた。彼氏との晩御飯の約束を思い出したのは、日が沈んでからだ』

窓の外はすっかり夕方に。

タイトル「延長戦 #2」

○夜、オフィス内と週末の町をカットバック

女 ケータイで彼氏に連絡を取る。

「とということ、遅メシでなんとかならないでしょうか」

週末の街を歩く彼氏。

彼氏 「えー？ もう店予約しちゃったよ」

女 「すいませんそこはキャンセルで」

彼氏 「どうやって時間つぶすかな」

女 「映画でも見せて」

女、仕事に戻る。

しかし、企画書はぐちゃぐちゃで、煮詰まっている。

× × ×

ケータイに出る彼女。

時間は夜11時を回っている。

女 「すいません。全然まとまりません」

彼氏は自室で料理をしている。

彼氏 「だろうと思つてさ。飯、俺がつくる

ことにしたわ。今夜は泊りにおいでよ」

女 「ありがとう。もうちよつとだけ、延長戦の時間をください。ずっと前からやり

たかった仕事なの」

パソコンのモニタに戻る彼女。

しかし、やはり進まない。

○深夜のオフィス

もう誰も残っていない。女の席だけ電気がついている。

メールする彼女。

メール「全然、終わりません。もう寝てください。ほんとにごめんなさい」

何もかも終わっていない。

彼女から電話。

女「もう寝て。ごめんなさい」

彼氏「きみの分のご飯は残しておいたよ」

女「…明日何時に起きる？」

彼氏「いつもと同じぐらい」

女「じゃ、その時間にベッドにもぐりこ

むから」

彼氏「そんなにかかるのかよ」

女「…」

彼氏「…？」

女「…あと、ビールは、残ってるよね？」

彼氏「朝から飲むのかよ」

女「あなたとビールを飲むのが、今日の

終わりなの」

仕事に戻る彼女。

コピー「勝利の美酒は、

最後の最後まで取っておけ。」

○ C I (企業スローガン) ○ ○